

# XDRデバイスの洞察とオービタル統合のトラブルシューティング

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

## 概要

このドキュメントでは、統合を設定し、Device InsightsとOrbital統合のトラブルシューティングを行う手順について説明します。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

設定の詳細については、[here](#) 統合モジュールの詳細。

## 背景説明

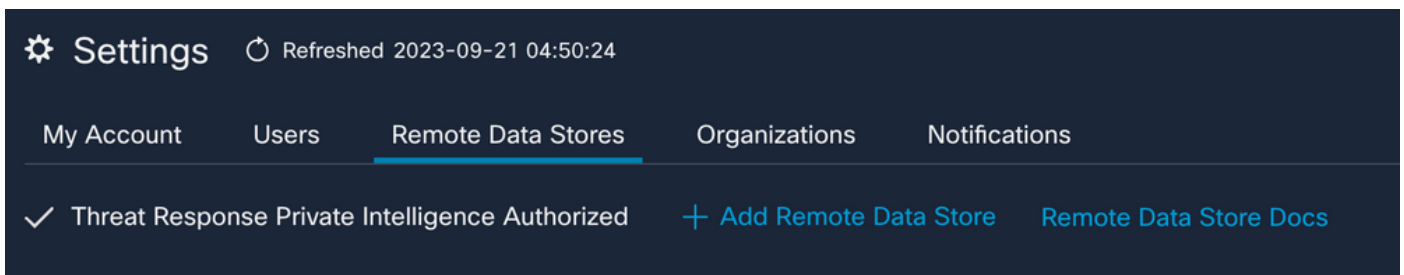
XDR Device Insightsは、組織内のデバイスの統合ビューを提供し、Orbitalなどの統合データソースのインベントリを統合します。

## トラブルシューティング

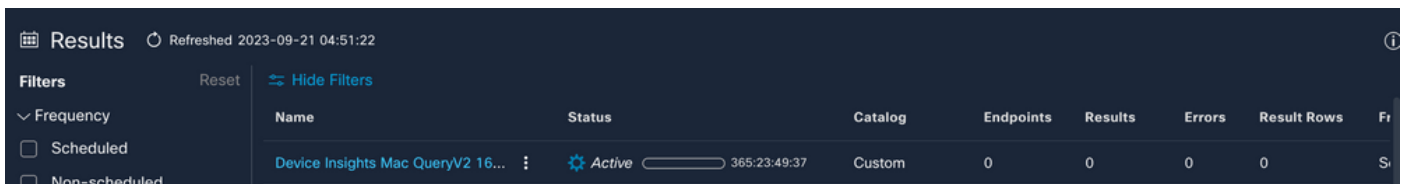
このセクションでは、設定のトラブルシューティングに役立つ情報を説明します。

## 接続

- ソースのREST APIクレデンシャルは、Postmanなどのツールを使用して基本的な接続をテストするために使用できます。
- クエリの結果がOrbitalエージェントから取得され始めると、データはリモートデータストアに公開されます。
- Device Insights用にリモートデータストアが作成されているかどうかを検証します。これは、アカウント設定から検証できます。
- リモートデータストア詳細管理者から、Device InsightsテナントIDとDevice InsightsのURLが表示されていることを確認します。ステータスは認証されている必要があります。



- Device Insightsで作成されたジョブをジョブリストで確認するには、[結果]タブに移動します



- XDRポータルからAdministrationに移動し、API Clientsを選択して、Orbitalが選択されていることを確認します。

# ncalvaca\_Orbital



## Scopes · These are not editable after creation

<input type="checkbox"/>	Notification	Receive notifications from integrations
<input type="checkbox"/>	OAuth	Manage OAuth2 Clients
<input checked="" type="checkbox"/>	Orbital	Orbital Integration.
<input type="checkbox"/>	Private Intel	Access Private Intelligence
<input type="checkbox"/>	Profile	Get your profile information
<input type="checkbox"/>	Registry	Manage registry entries
<input type="checkbox"/>		List and execute response actions using

## Availability

Organization

## Approval Status

Approved

## Description

ncalvaca\_Orbital

- エラー「No response from endpoint, it may be offline」：このエラーは、エンドポイントの電源が入っていないか、またはOrbital Cloudに接続されていないことを意味します。「[Required Server Addresses for Proper Cisco Secure Endpoint & Malware Analytics Operations](#)」を参照して、IP、ポート、およびURLが許可されていることを確認してください。

## ミスマッチ数

- デバイス数が一致しない場合、Orbitalはバージョン1.14から90日を超えるエンドポイントのインベントリを維持しないため、インベントリ内のアクティブなエンドポイントだけでなく、Orbitalコネクタがインストールされているすべてのエンドポイントが含まれることが予想されます。デバイスインサイト機能がアクティブになると、すべてのエンドポイントが実行するジョブが毎日繰り返し作成されます。エンドポイントでジョブが実行され、結果のデバイス情報がOrbitalに送り返されると、Orbitalからそのデバイスの存在がXDRに通知されます。そのデバイスのジョブ結果が90日以内に受信されなかった場合、Orbitalエンドポイントはデバイスインサイトのインベントリから削除されます。
- 軌道の再インストールでは新しいGUIDが作成され、コンソールで重複が発生する可能性があります

あります。

## ライセンス

- セキュアエンドポイントコンソールに、Orbitalにアクセスするための適切なライセンスがあることを確認します。

## MacおよびLinuxデバイスが表示されない

- OrbitalソースのMacOSおよびLinuxデバイスは、XDR Device Insightsではまだサポートされていません。

XDR Device InsightsとOrbitalの統合で問題が解決しない場合は、この[記事](#)を参照してブラウザからHARログを収集し、TACサポートに連絡して詳細な分析を実行してください。

## 関連情報

- [XDRリファレンスガイド](#)
- [軌道トラブルシューティング](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。